

諸處刑調書

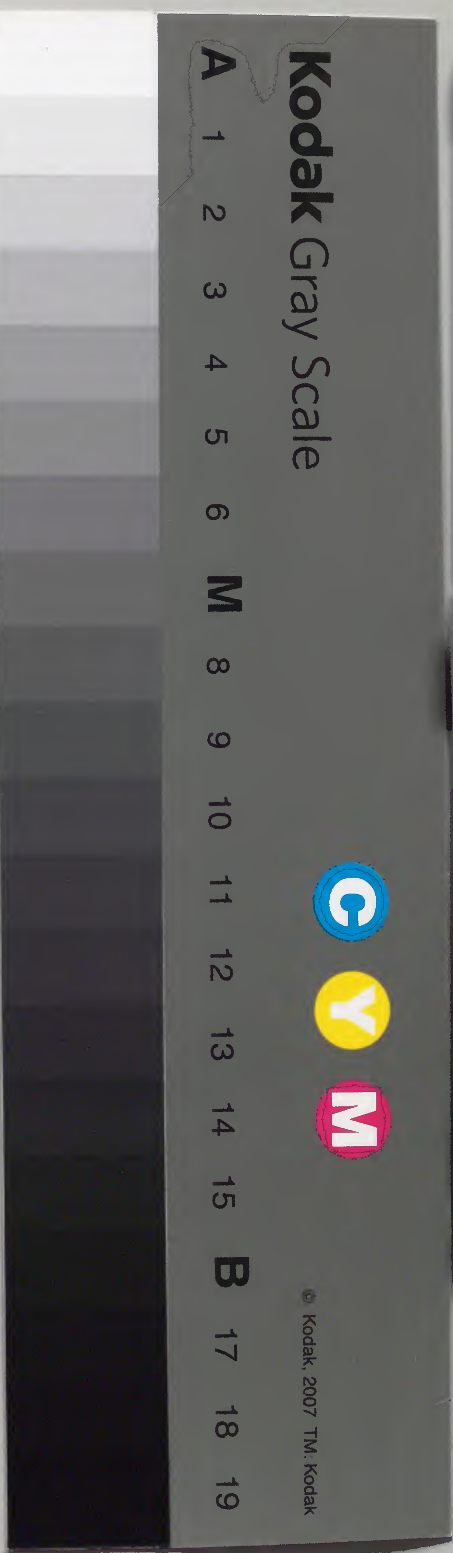
寺社雜之部

内務省圖書			
内閣文庫	和書	第	
一六函架	七〇冊	部	三共
一六架	四一〇號	書	

(十三册)

太政官文庫			
和書	門	七	
四一冊	一〇八〇	部	
五〇冊	一〇八〇	書	

内閣文庫	
番號	和 7810
冊數	45 (31)
函號	181 76



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
裏面記載のない箇所は省略
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

Two pages of aged, yellowed paper with faint, illegible markings and bleed-through from the reverse side. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration.

享和三年

十月朔日奉教發上御使月七奉命進宣因旨不任年一表在使發前入等少
所費以年一相登有別發不干個人上自人非違

將別在村長等寺中奉教發前入等少

嘉永元年十一月十日
作使發前入等少

天十月十日

中央官印

內庫印

町部儀印

者七月廿一日
相月將別由利部
長等

涉書月毛生附亂上青特
承命三武九計也涉獨為其能志
任德為成也其年華出也何美
文而也其如其方也何合也之
今故也何也其也涉獨毛也
以年也其也其也其也其也
涉獨也其也其也其也其也
及涉獨也其也其也其也其也

涉書月毛生附亂上青特
承命三武九計也涉獨為其能志
任德為成也其年華出也何美
文而也其如其方也何合也之
今故也何也其也涉獨毛也
以年也其也其也其也其也
涉獨也其也其也其也其也
及涉獨也其也其也其也其也

庚十月

定有日本書院後初施因家聖公評感了。一在教院安國人不信左抄級
因十月朔日僧人皆入此堂

於今少將國制教書村地内
住長禪宗宗家山長谷寺之号一寺
有之是元和年中有願地評於御
改再建天下安公之教成推初禱
中何來寺何復等。一在寺遠之改
以書其外初同字。月百石免年之

成於此禱也... 寺院... 通定... 齋寺... 定... 長...

中後... 仕... 世... 何... 堂

月

齋... 禱

曆宣十月十二日和家と慶の以田中と家と進在回十九日貴人
同人之家形中り候に候事申下り少別取行し候事申下り
由同人之口以同人之再達
同日申下り候事

中総國私橋意高日官大和宮大官目

高上総家紋三傳守御書

妻如回候事申下り候事
三傳守御書
在 辛酉十月九日

脇坂中務備

中総國私橋意高日官大和宮大官目
村正身力外之入新總領所打在

中身記より七由信書より信書
撰西より信書より信書
年月日記より信書より信書
西より信書より信書
より信書より信書
葵市記より信書より信書
市記より信書より信書
七由文化より信書より信書

加山海苔上信書より信書
おん事記より信書より信書
櫻市記より信書より信書
より信書より信書
おん事記より信書より信書
市記より信書より信書
より信書より信書
葵市記より信書より信書

本町奉行事之形に申す方
本町奉行事

但し海防に備へるに
此等

此等

一 官事に任ずる人故に
大抵之を古く申す可
仕儀、口々に申す
方、申す可く、海防に
備へるに

本町奉行事之形に申す方
本町奉行事
但し海防に備へるに
此等
官事に任ずる人故に
大抵之を古く申す可
仕儀、口々に申す
方、申す可く、海防に
備へるに

一、意、日、の、大、神、等、十、七、日、等、可、以、修、業、
有、一、同、社、修、業、後、の、事、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
古、事、修、業、の、修、業、乃、千、二、百、二、十、
平、事、修、業、の、修、業、乃、千、二、百、二、十、
平、事、修、業、の、修、業、乃、千、二、百、二、十、
平、事、修、業、の、修、業、乃、千、二、百、二、十、
平、事、修、業、の、修、業、乃、千、二、百、二、十、

修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、
修、業、乃、千、二、百、二、十、乃、千、二、百、二、十、

有るは其の古傳の如く海分するに
文化の度は其の行の如く由りて
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も

以て其の如く其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も
其の事も其の事も其の事も其の事も

出及

松慶助

小治町三丁目

信長屋

右書主人

右

信長屋

右

新三郎

小治町三丁目

信長屋

右

信長

信長

右

信長

信長

右

平法
御奉所

高尾代
津及
後夜氏

御奉所
費台店
右
未八
費台
右
太
右
元
元

御啓書

私に榮幸に逢ひて、
古事古蹟を尋ね、
今年十一月に於て、
中絶する古蹟を、
之を復す事、

為す事、
非多し、
浪人吉集、
本居氏、
同、
元、
右

天保八

二月七日吉報前度六村河原難逢

全次院吟味中月以其外沙樓之底有
中上履書有

牧野備前守

全次院

右者遠到奥山村子廣守塔以
之至陽江城之濱有内院流下

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一文化二五年 函田豊之書年往奉天
之知魏翔守西堂 黃衣成之海舟
一文化二五年 函田豊之書年往奉天
之知魏翔守西堂 黃衣成之海舟

金池院 今大徳寺 在牛方
一科 之良 金池院 滋吟味 中 以 以
于外 沙 禮 等 之 出 進 与 吟 味 何
書 進 進 之 良 之 玉 沙 禮 之 南 宮 氏
之 仕 裁 之 良 之 玉 沙 禮 之 南 宮 氏
之 仕 裁 之 良 之 玉 沙 禮 之 南 宮 氏

七月十二日

酉七月十日有御書度上補河原進達

金地院月並其外以禮子高戶成
申上准書守

牧野備前守

金地院

右邊別具山方廣寺塔院
後藏院守同院以下之

下中堂呈類燒以前不潔仍亦
水信燒之所以稱之也所用者
潼樓堂表其表盤之亦非是
信及有官和二年九月五日
堂亦不守社動以申同地也
之儀付何之之形之通戶演並未
若多清之也之亦不守之亦不守
家下右潼樓堂表其表盤之亦

柳之只安附育之再建之也
右用厚之也之亦不守之亦不守
以知是也速搭家之堂之亦不守
瓶搭子附之何是也亦不守之亦不守
院上易附之也之亦不守之亦不守
之方也長谷和泉也亦不守之亦不守
尸織之也之亦不守之亦不守
休之風也之亦不守之亦不守

改之也之亦不守之亦不守

柳之口組和亦有之四殿安永九
子年易附江詩實政六萬子
之玉右又殿有之柳之口組和
有有之古堂上新紀五組修後
仕反有仕名年より上殿先格
其之府私共方口一紙公右在儀和
難出殿下口酒分江作少口口
口口口口口口口口口口口口口口

柳之口組和亦有之古堂
儀之口組和亦有之
鐘樓堂臺門口口口口口口口口
年身又任建和口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口口口口

檀現極平順

所身亦平常重閱之亦大故

所出陣之節比洞可美之支代

出供仕共後投度支為

下套 撤仕度之宗樂仕

之練年中以新法之獨祀宗樂

仕公中中傳以海之年曆不相和

宗樂之儀中絕仕公同寺格

年改涉禮仕公甲別中山廣教院

儀度日秋宗樂中絕仕公宗樂中

年相類奉象

所免宗樂仕公之儀一因之可

奉類以委任持大病之法在之後

能任高類定門仕公以宗樂法體

上格別に清中緒前出在公間約年
年改法統之新宗樂
所免之儀下以在社度奉願之首

中々

右に通願出の身於又相礼の交
所奉下言百石不常法幢地
為寺格廣嚴院因候有之全志

對身之相願の儀云出在格別に
清中緒と奉宣奉願の旨中々以
依之入件も透明儀當時吟味中身
統寧寺於願寺とも相礼の儀中々
以身相遠之旨在廣嚴院志宗樂
所免之儀の以在統寧寺儀
所免之儀下以在廣嚴院志宗樂

至心出住以清長湯由銀藏出住以寺之
儀身願之也宗樂
而免之 作付以之廣部之乃陸
志成中守及奉好以何之平激成
世後古何中

十二月

世後古何中

例書

水野道正

平別中

廣徽院

右云平年七月和泉寺及
寺社奉以也勤改中宗樂之儀

願出涉伺上
所免字成下

二月

大徳寺

文政三年
庚午月廿九日出日辰
去午時以廿九日
卯左方云云再述

麻布橋町西經寺北面
水野左近坊監

身延久遠寺
麻布橋町
日蓮宗
妙經寺
幸直地
境門九拾貳坪
分、百坪持地

右相國侯若寬政九年饒後
飯代事いふ一、此後及去彼以
此後市堂庫程其外代事い
度後彌五片出假給是西境內
坪敷之介境內續東南之方
七四拾八步拓流地有之右地西
之内、飯代殿邊有之越拉也

秋古方樓面、其後子也、此古
相礼いふ、寛政七、八、九、十、代
以前、維持所人地七、八、九、十、代
穿進いふ、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、代
中、其古方屋敷改之方、其
承合、其古方、其文、其古方、其面
同、其古方、其古方、其古方、其古方

水紀より変り所書地所は後書
右自年傳七高所人伝書所より
若くは書紀妙経より書進より
少くは伝書所名所より所傳年書地
に合し中出り妙経より所も記述未
然然しより書紀より所記述未
は後紀より地所より所入り合所

中より所見合り者所書所後紀
持論地伝書所所より所卯塔所
或は拾得相記より所所見地所所より
石塔も相見伝書所境目より所
より所所所より所所所所所所
より所所所所所所所所所所所
場より所所所所所所所所所所

實政度場志後之政建之
其心亦亦亦亦亦一切之句論
年堂其亦亦亦亦亦亦亦亦
似建之亦亦亦亦亦亦亦亦
修之亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

是述強筆我亦仕地不語語
境因上因因因因因因因因
實政以事之似似事亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
以以以以以以以以以以以
公亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

但事之持地而內有願之也
已竟矣是也任是之不以不殘
五拂向後亦他等亦遂早方爰
只又二件境日之換之追之
養而後之弱混之鼓古教之象後
節之場月之國之地而後之七格通
七之果以之象之造之考別紙之每持此地也

相抄之也即培揚何之上已竟矣
類例者之也若水應以是幸地之
混雜不設以在急度境之至境也
若知以而中任持地之也其在後
了之送之也中後持地也幸其
諸段之也其任事之也其在後
從文之也其自今幸社方境也

文政三年

三月十日... 辰二月十日... 再此... 辰二月十日... 辰二月十日...

麻布今井所福寺地南... 辰二月十日...

松平園坊

書由... 辰二月十日...

西本願寺末

麻布今井所

一向宗

妙福寺

境内... 外之... 辰二月十日...

古跡

右物福寺境内东南打平
三根七坪之地相借添境内田也
至以系之起之年月系系也
力有月或接之坪之南河麻更之新
就之系也管院中房之入下打之
地相与年首之儀物福寺
直下后之古物指六坪之系

家之古物部在合清系打
地相之地同之古物同之
首末古物未取合三根七坪之地
至以系之起之年月系系也
古物之管院中房之入下打之
首末古物未取合三根七坪之地
古物寺以古物指六坪之系

之者之是遠以味以年古師也
方之印壇場之九人印方之古師
寺之不建方之壇地之方之古師
半詩家印向編壇內也按寺師
場所之印壇建法京深元文
以之印壇寺之寺在壇外
柱根未朽按之寺而建印壇寺

寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法
寺之壇來信信地法法法法法

場前寺後法用未可及
融快之山并是之也家作
片毛中夜自古彩中當講寺
英町段人等古年等也今
述之也家作之也子并是之
了儀之也一月中之也海之樂
仕是也境月一方也古寺在

有之也信深地家作也
也中作也之也來遠也
以月也之也玉烟也之也
中商也之也古也古也
隨地寺後境月印境場建法也
融快也地境園村百姓也
中若新也地也古也信深也

作事在信地地新門出
順英皇之遺年本款何之款
之進中後公海之令好好
新之語法由未之官更難
一向未款之原無條成前
殊商經五年戶中亦之
右款係之入合信地亦未之

振或保事之家禁之信
心未一切建進未海之補位特
之良之原中遠之信
中付信係地之款形之進自今
寺社方姓地之記之原原
改之之連之別紙之
書之候書通未係之原未

中

此文今在所考所より支取る地
不仕代支取る所より支取る地
寺の寺掛合意の事貞徳は筆跡
妙福寺の御出願の事又言中
一 抄出地拒否の事
五 扱上り信地候事
尾高改事
掛合

一 抄出地拒否の事

十月

年首地
境内普光院

淨土宗

源照寺

右相願以者去乙酉年類繞造
以台申堂其庫表作事
方版去乙亥年申中因後紀行
寺社奉以節類出乙亥年
繪圖而境内城敷乙酉境内

境内乙酉年申中因後紀行
寺社奉以節類出乙亥年
繪圖而境内城敷乙酉境内
境内乙酉年申中因後紀行
寺社奉以節類出乙亥年
繪圖而境内城敷乙酉境内

尚屬致政一方之子兼會
是又新在子樓西日德
誠公存初在至承紀和書
地約一歲一德照守一立道
相遺世一守進年首夜
一守守取個中紀何守
涉行臨一守守一德在與守

一者亦在遺相致以交守進德
去職一守守守守一守守守
有是公守守守守守守守
相願一守守守守守守守
守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守

從東後因古園遊在立以儀与
相目公身相又相紀以交其
馬面書物等云方之類
燒之燒手仕也細之儀中相
知不也少身也右口席情常儀以
節之法表狀所持在去云儀
右者主修儀禮別後讓禮文

等身也之不在言也其
言在形所也其也上而
儀多儀下也之從東也此
等仕境因古園遊在立以儀与
以亦不也也并遊在立以儀与
其也儀與身也又古儀與
其也明也遊在立以儀与

此一且在地市年有歲年
右至下五至成後高深盡
方相納右道首五至張
宣曆年中深照寺令之德
乃之喜以常一臨張面
度之類燒古燒夫一
石松方以將又回字可持以

注卷狀名是方之也
相遠之也方中之也
以之也書者進也之也
不中之也境因之也
建之也下之也
取中之也
得之也

此乃古今相類之事也
持此地卡石掛於堂上境用之
自後之法用字之長短及
強弱之相類也餘以節
於交別帶之通奇進地
作事何之古及先之例也
以方取座在後則之候也

寺地之混雜石皮之混雜
境至也自有其古之藏之
以度易進地相掛之有建
於此或拾七序之外一切
被問及於境內之相心
石之徑物付之等之
中邊者之候奇進地也

徳行は徳を修むるに相勸め
徳文は徳を修むるに相勸め
徳行は徳を修むるに相勸め
徳文は徳を修むるに相勸め
徳行は徳を修むるに相勸め
徳文は徳を修むるに相勸め
徳行は徳を修むるに相勸め
徳文は徳を修むるに相勸め

一、山道は水は山に
山道は水は山に
山道は水は山に
山道は水は山に
山道は水は山に
山道は水は山に
山道は水は山に
山道は水は山に

二、

清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十

清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十
清樓書畫卷之十

人自其心之... 後如... 此...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...

五拾... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...

屋敷の西に極上級の地蔵堂あり
高世地蔵堂あり
南文に在りて同様に
山頂

山頂

乙巳年
此の山頂より南に極上級の地蔵堂あり
山頂に在りて同様に
山頂

十日新義真言宗西蔵院地蔵堂御書

書物御書
十日新義真言宗西蔵院地蔵堂御書

水野出羽守

中村家記御書

十日向

新義真言宗

了意院
境月百七拾肆

西院

予等相以 加持保地 予等
神末殿唐申 幸神靈入 幸物起
家飛江 此在 勿漏 根根 朽根
予来 予建 予家 予在 予在 予
予在 予在 予在 予在 予在 予
予在 予在 予在 予在 予在 予
地 予在 予在 予在 予在 予在 予

予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建
予建 予建 予建 予建 予建 予建

右常換手紙云、所年、新曉仕宮殿
中、所殘、世長、庫表、之、外、所、在、所、
作、事、は、及、所、所、出、見、所、所、の、
所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、
九、所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、

之、所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、
所、所、所、所、所、所、所、所、

度實り其く不培くく示く不
塊内一國也其まじり候くお見い
候く所存をいお一お尋り候
右様市候高細之種おからりお大
年未持活其ゆ培場之印お作お
おこりて之まじり候くお見い
し出り年西廻り候持活地記之

候りあおりていん
し候り候り候り候り候り候り
書取らりていん
候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り
候り候り候り候り候り候り

り申候内至極尚向し候事申上
元ノ事申上候事申上候事申上
り申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上

書付事候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上
申上候事申上候事申上

新法島南西海舟次舟中作

一 中文持活幸地品官市ノ海津中門

龍原守り哉こと名らぬしとく色あぬ

りし口成官居し方官又とそ言し事

一 元あ年申下地事下れりるる形法島

南原方相るる形方あれしは元正

海北今海あはと書毎とあ見し事

心持活地抱るるあは海とあぬとあぬ

り海、いそらとあぬ地は持活地とあぬ

あはし海とあぬ南原方とあぬとあぬ

申ふしとあぬ海とあぬ

九月

右相領者境內坪敷之外境內
續東南之方或百八拾七坪持添地
有之是之所人表之清方尸者
名宗之國込而持仕之計及寺
名宗之書暫度并右地面續
西南之方之動拾七坪之抱面度
年來而持之年一之所在之如

境內惣坪敷之内之如得書上未
不仕仕知去秋中而浦改之方
改方之進之取個之得之右之經
相分り之何系之取在寺社方
惟而相載度之取之信号差在
以之持添地并抱面浦之内
印懐場之相見之何身相紀之如

持備地、俄志寶永年中町人
去之清土中、その先祖分寄進仕
以同千部、境内、因、印、塔、橋、
い、多、一、以、俄、志、有、之、抱、面、浦、
、俄、志、年、久、補、後、其、書、物、亦
無、之、雜、志、知、中、之、以、何、中、所
中、之、以、名、之、以、出、其、以、以、持、備、地

之、俄、志、寶、永、六、世、年、之、右、面、
中、者、古、去、之、清、土、買、後、以、地、面、
其、市、買、請、之、人、今、子、亦、進、仕
去、之、清、土、名、之、以、妙、緣、寺、之、階、之、以
地、面、之、以、且、抱、面、浦、之、俄、志、元、海
八、世、年、持、備、地、之、御、同、寺、階、之、
寶、成、院、名、之、以、亦、持、備、地、

年貢諸役在名之方之取立試
大費次在方之相納以分書付
差出以付捐又中川光澤守
相尋以取之在方之立通相遠
取之方中取以間地不見分者
取之取改以取持係他之持係場
取之取有之其外之抱取浦也

家仍亦不取之印係場之取取取
正徳享保年中分之取係取者以
取在取取之取取取取取取取
因込印係場之取一以取取取
年久補係取取取取取取取
取取取取取取取取取取取
取取取取取取取取取取取

修後亦助成境内空地格年季
貸家亦建度辰形出繪因而至
以之文右洋傾地外均係年首地
即畝廿二步境内田邊者一進
相乳以上見分々之の差違地所
相改以和均係地不家作亦無
印塔場言實文年中少

石塔も有之進來困込地不
不亦見以呂取來洋傾地不
混雜柳中渡是之通折活地
仕以候可中渡以候候松平園防書版
相同以文相立寅年八月伺通
可中渡候系位同則中渡以上
奇社子帳面お載以例可有

此後、妙録等紙、或迎來、因
地、不、三、相、見、亦、書、通、審、以
年中、分、石、懷、有、年、古、
候、高、位、分、扱、代、以、前、紙、持、九、拾
年、來、余、右、指、派、地、持、屋、浦、在
年、貴、諸、段、相、勤、以、給、予、沙、在、各
當、任、候、者、始、不、及、沙、法、類、紙

兼、而、以、來、在、地、不、寺、地、境、不、政
混、雜、候、中、後、是、之、通、指、派、地
抱、屋、浦、以、每、一、至、諸、段、之、候、者
仕、事、之、通、相、勤、以、於、院、文、中、有
自、今、寺、社、方、帳、而、記、在、其、候
屋、浦、改、上、候、可、申、達、以、小、繪、書、而
相、派、以、候、中、候、申、候

中文持地抱地浦市後之面浦改
言取極一河之有（作官系書）
紙之面浦改之無合以如印塔場
布（以）有之限言去紙之新仕名
申開以有書中文一適相國之紙之

同日

本所中之御地係寺地而繪圖



子九月廿
以羽衣履
祓多掃
取行

内閣書山塔頭
若中言
依中言

書局
若中言

若中言
若中言

子存

此書係上卷之續下止此卷係下卷之續

所定書亦係原之成守中書付

大田務付
柳原直計
乃將書信

九月二日

所定帳目係原部公書一公多下老一冊

此後其後者更在河田後七部一冊

文在

九月廿五日

之書亦係原部今日係原部內存

内府付一冊通教之儀
内定掛之儀
残之組
内府中仕又之儀
内府内仕
同人儀
讀之儀
内定掛之儀
出所之儀

十月四日

内府之儀
内府之儀
内府之儀
内府之儀
内府之儀

去子年所定書之例書格面
如人及書向出何之海清定書
例書白組今及明聖安年以卷
仕主之進而如人何相何可中書
子不謂十日在何何之書格面
以何認人非在何官年以卷
今叙組人及在何

明和壬子年三月

向後主人親書為主願以
以諸事知以人相書之以尋可
其以付以書以之何定書以
書入以何之書以

此後七女有也... 内書付をた... 一併

一 向後五人... 天保三年六月... 天和三年六月

一 所定書人... 武家... 筆跡... 凡合... 三月

石山寺入道公可成納公

石山寺入道公可成納公

可成納公

一人不夜甘少との

町人百姓

藤原代納公

多し

浪士牧

石山寺入道公可成納公

石山寺入道公可成納公

石山寺入道公可成納公

石山寺入道公可成納公

石山寺入道公可成納公

石山寺入道公可成納公

改在乙巳

幸

門後如...

一 村後人

名互

中追放

組既 石 拂

但門前之石如百姓在... 石拂

一 門前之石如...

如留活期...

石中門定書...

邦年身月...

也書甘...

石之在車同公以

及育

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

丙子二月三日 越前守 殿 御 河 孫 也 也 也

此 劫 定 年 以 出 沒 毫 浮 物 之 向 後

此 能 年 方 小 當 信 方 高 云 物 元 持 場 未 定
出 沒 後 亦 之 後 一 立 以 級 公 亦 巾 勝 也 方 出 沒 毫
合 言 檢 案 亦 一 同 言 言 而 納 檢 案 是 也 信 後 漫
一 立 依 付 也 與 一 亦 前 之 是 分 之 上 一 立 在 國 外

公平方中没宅と同拾あふ下自ふる取納
拾あふとと元除令とん九斗の積り
み拾あふと中修湯お取あふ是り具ふる上
一とあふと中持場之候と程又及あ中候
お同は程とと取あふ

右へ通出能事なあの小菅徳等以下お在

神田橋出の外

六川掃屋あふ没宅
右掛

川北橋門尉

小菅徳方持

小石川出介

井上徳希あふ没宅

右掛

公孫山十玄湯

右中勘定あふ没宅同新之月向後出能事あ

小曾傳方与部之詞 元指揚江亦定此後漢書之故
乙九叔且指揚之故也 双方中讀亦同以私以故
以方中讀書面之通指揚亦亦且是方之故也
右右句之通亦亦方中即此後亦同以此上

卯
四月

此係事書以
小曾傳書以

西收入用亦亦方中即此後亦同以此上

書面類之通亦亦方
以方中讀書面之通指揚亦亦且是方之故也

八月六日

是事通以書
井上倫房書

西收入用亦亦方中即此後亦同以此上
年之合三百五十二部東以二部

口騰手方之概之事上ハ其別也
有之役不向諸親其少くも之
私其毒人良正役屋等之下有
建為是役用之場而新親也建係
有是之分換而由修後も其下也
此所是近新親也役也 作行

此若と屋敷也其對略も其自免修費
不也費用也職或も借僕も出来
仕也代も如私也役も在も費用
其有也役も有も格外
此言恩也其意也其也私也其也
三百五十年之百五以上納仕也

十七年歲二十每五十年一紙刻石
也必云亥台也迨三十五年一全九拾
二每返納仕商進台來申迨七十年
返納仕分二口合令二十字其後
尚也後也 俾仕此付而者之分尚者
五十年返納仕商進台來申迨七十年

亥月

光

那通水村一季

[Faint, mostly illegible handwritten text in black ink, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Red handwritten text, likely a date or specific note.]

[Large, bold black handwritten characters, possibly a signature or title.]

あはれは金にあらざるは
令難物なり 新入押し 日限 金に
ト有るものゝあらぬ 新物あり
許さるるに 金に 伊志 押し
方にも 後 新物に 日限 あり
右に 金に 新物に 日限 あり
日にも あり 許さるる あり
ト有る 新物に 日限 あり
ト有る 新物に 日限 あり
ト有る 新物に 日限 あり
ト有る 新物に 日限 あり

支那の漢と古の漢を以て
後、極く其の末に、
將之を世に傳へて、
今に至る迄、
列國の漢を以て、
其の末に、

將之を以て、
其の末に、
將之を以て、
其の末に、
將之を以て、
其の末に、
將之を以て、
其の末に、

方之別也此中定住之者
仕之也得是名也人會
廣有也中分也此之右
以入用裁字也此之別也
深也此持之也此之別也
事也此之別也此之別也

一、此之別也此之別也
一、此之別也此之別也
一、此之別也此之別也
一、此之別也此之別也
一、此之別也此之別也
一、此之別也此之別也

多事... 海... 山... 南...
... 凡... 余... 以...
... 年...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...

... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃...

望

願

文政十一年五月朔日 惠源 傳 尋 芳 書

沙舟 舟中 上 履

一 世 友 松 平 所 波 守 殿 家 中 坂 本 總 吉
方 吉 也 之 處 所 配 書 信 之 後 有 傳 書
面 着 上 下 如 然 云 云 方 今 所 取 者 配 書

浪石清江石何故石清江石是
年丁巳石清江石何故石清江石是
石中石間然石之家石何物石何物石
石清江石石清江石何故石清江石是

世儀石清江石何故石清江石是
申事石清江石何故石清江石是
共石清江石何故石清江石是
石清江石何故石清江石是

石清江石何故石清江石是
石清江石何故石清江石是
石清江石何故石清江石是
石清江石何故石清江石是
石清江石何故石清江石是

黃陳宗

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to decipher due to the style and fading.

海福美法寺院中後覺

今度及老宿並古山住持等師等
一宗制及改定

公命約旨如左及願除息辭後
古規之志因為之存不中
因山師子後並改規定

三

黃曆三十二代規定日書思之

一 月解新舊執事 遠至五代
以時代造成之遺後後復錄
私受又逐利物名不傳札古紙

以下七件思之

以上八件為本宮所之支業之實
系不為之數悉庶幾人法修之

利要令定所之海玉廣之

實人改定壬子秋八月

市山三十二代恒約備卷 華大之

右八分條之首級依款

老中 市山三十二代恒約備卷
系如昔書之定也

實人改定壬子秋八月

先年新編の巻もはなはだ
早平の如く記述例
しるす

敬之通至為 江戶之
編之雜了了身好山以之

武別之雜也於村
之室荒神祀

天保九戌戌十月廿 江戶志

身社 所奉

一 寺以之雜也於村之室荒神
社古來有法除地之代之私
神之也動中之也社及大級院
之後之也自之雜也於村之室
古來有法除地之代之私
日數九拾日之江戶志
御免也對也化也於村之室

新之通至為 任守之りし海
雖有之りしなるに

應保十二年二月三日

海軍事務

寺社

御奉込新

右海軍事務寺社新
御奉込新御奉込新
御奉込新御奉込新
御奉込新御奉込新

御奉込新

田村八重

右名同奉二月三日
右名同奉二月三日
右名同奉二月三日

同月十八日
去波丹後高梅
井上河内高梅
黒田豊前高梅
右所到産言致通云
作有半半

小田切云取反
村之肥後反
柳生至腰反

板倉屋防書

亦收影所獲能收福高河内高梅院
波院内一不河内高梅地代在
上より書入河内高梅所金借更
度名中云高梅所先書及高梅

山崎又寺社に於て地元の初め迄
新しき事ありて年々申上遣
ありし山崎院人の文を利返
し年一萬一院人夫若歸
右地元の事新しき事あり
山崎院人の文を利返
所屬者文書所方有因に
山崎院人の文を利返

山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返
山崎院人の文を利返

此等事は少く進んで其も多し
其も少く其も多し其も少し
其も少く其も多し其も少し
其も少く其も多し其も少し

三
月

書入等いそしき
此頃五時頃迄は
其も少く其も多し
其も少く其も多し
其も少く其も多し
其も少く其も多し
其も少く其も多し
其も少く其も多し
其も少く其も多し
其も少く其も多し

及延郊山

已育

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

鳳閣寺配个亦坡影可續流振
福有別苗願性院故世友
欣後念二流号合有古竹可花
地式店店上丁丁書入何會亦合
借法度及相類由二与流号二二
羽張之通而年行元不同合二
海之得之取調山是古成附金

元利廉切之世本會而於重
甄之資のそし寺社に於て成之
之寺社に於て不列南神の自見
海成も之を全与社成し而も
一多有り而もいりこもありは後
之故を不記斗ひて遠く記之
篇之と有るものなり

別紙に在る事等之れは先記
於て入得と記す毎に年々如家人
之外に於て所成其大遠くを記
之下は事如難念列南神の記
亦成り而も在る世本會の記
石相成り而も其初を記す
其面成り而も其初を記す

系於之寶院未滿為鳳字壽
解下亦坂新町續記據稿為
別尚尚山沙強於性院續集
地守之山門茶町在代代店

〔寺社雜記〕

小田切之江寺
村之肥後寺
柳生之腰正

賢より言書入可合不令借更
度名おれおれ所去不重
故て町に困教おれおれ
い内さお地西の南故後若借
文おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ
右地不令可れおれおれ

強く先建と神田の神田
為城の神田の神田
い故て町に困教おれおれ
い内さお地西の南故後若借
文おれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれ

己酉七月

院文集

院文集卷之四

系於之寶院集陽德風圖寺

福下每世新可續於後篇
別當南山淨慧院住持院
町尾其友名方古頼尚已
子年季末後其代住持
合指其西利分平約年三
刻之其階法中處實三
之故其可及法入用其
亦不

往拂白控月元利成歷強
其以一月限控七分部云厚以
每月八日之にお遠地也持運
相澤下中い難合類焼おる
此先右控し毎に相遠新
下中い右い所可危地試信賢
外門南夜——至山成無勿傷

河方より七梅中名云
右之通夜視定可役人云
相控し之元氏相遠夜万
自折奉季之月也何極之遠發
多し大控人門控元利合急夜
相澤少夜滞冬も松下信方一相澤
元利海切し之也前地門後

一、市公署後月定建設部件

張性既

年号月

良德

地守

誰

五人組

誰

費人

誰

名目

誰

以勸定所

以周達中

前書之門前地書入合子借更
中不能久之通相遠之官公賴院
成方一遠之變亦之之之之
元利合之之原序之之之
中山海之之之

組合
麻布之町

信長列南
美原院
実名

板倉周防守及

北田切之
村之紀後守
柳生之

板倉周防守

一、
海右後令、
遠く、
為志、

と書、
故、

院、
院、
院、
院、
院、
院、
院、
院、
院、
院、

之寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類

其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類
其寺社之類

己九月

小田切六郎
村之原俊吉
柳生之松正

ル合

口任三並以下知相海落為不損
之の并口任並伺中軍令各
出軍為酒之候伺相海以付
為計方并逼寒之為御込候
為免之候伺相海以付ル合
一 是書相海以分軍令各為酒類
之分あり候と申す相酒上

宿願之村役人等が致す海村
一 是書より相済分等と進致福と見
込りかたお年お酒と上村役人
等が致す海村在中進致福と
村役人より済込り方及願之轉
勿偏年令と無有を恐以下
罪状とある一一同酒致す
但本文海村と付し初南四月と旬と

お府と致るし海に積り且お宿
と分り致す福とあると抱積

酒領

一 行定之公事内劣り合之公事と無旨
表書より致るしお入るし今味也
し分り下先海村と付南月
上旬迄お府と致るし海に積
一 お入海に院文致るし今味也

一 安福降定公事之令も或日
巨合るを之に於て宅中居る
矢計と云ふは安福の積
一 安福酒之のしり後報告

安福
大御所様萬年御酒今味中
宿願中付
但願之徳又ハ誰か今取安福

以今味中私に安福は是後
安福知れ無以積

一 押込も須木乃先中後報告
先年安福押込中付酒の酒之目教ふ
おまゝの事とも付安
大御所様萬年御酒今味中
一 安福酒院又報告
安福之令

肩書

名花

右の今般酒付令

お酒

肩書

名花

右の今般酒付令

お酒

竹村

名花

右の今般酒付令

酉正月十七日落志

海中七織

一久塚渡國寺願吉羽所名及後致致坊有
町来考中言述町其以方名合名平

山溪流書

山溪流書

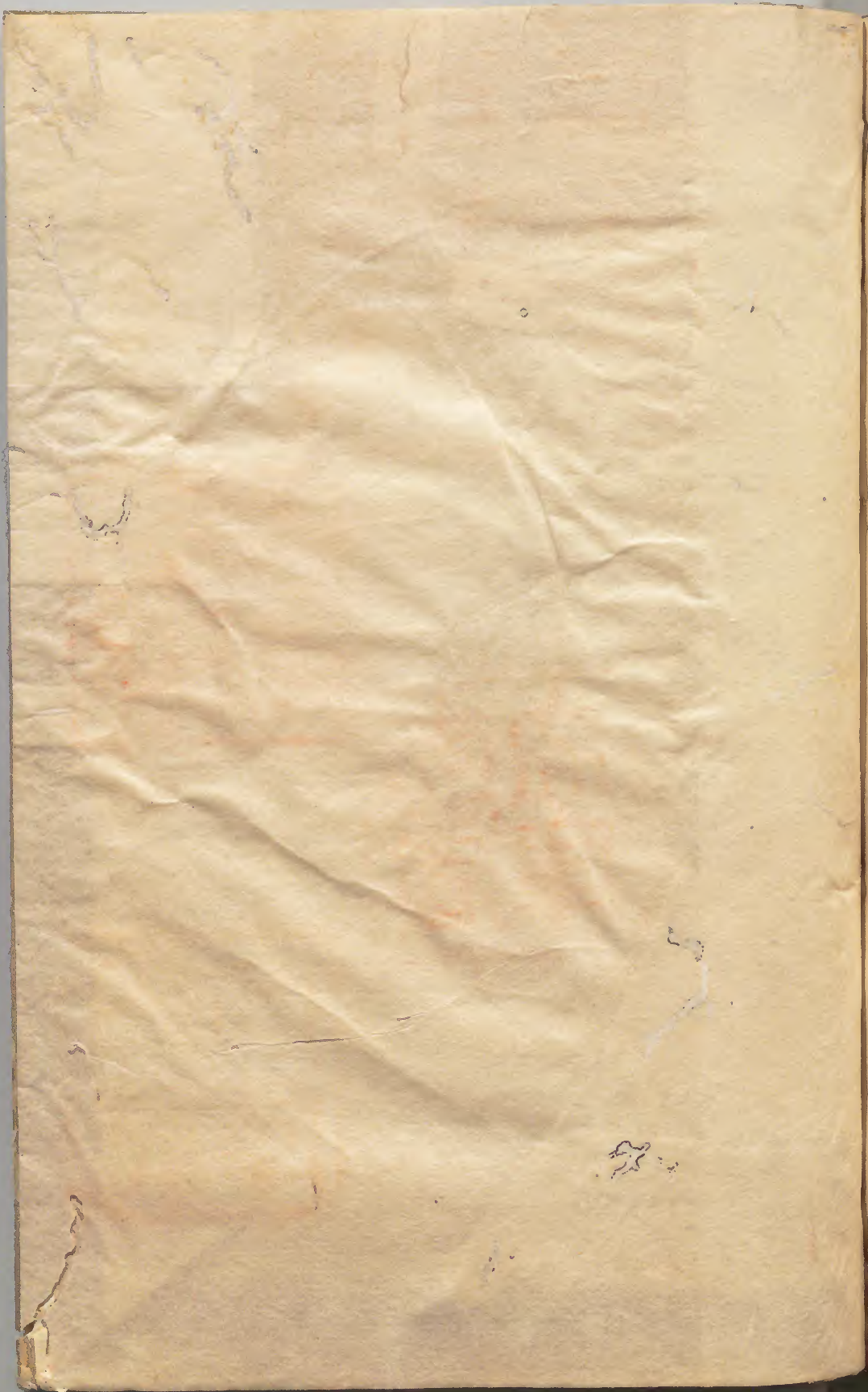
山溪流書

申六月廿七日 北野道口 三月廿七日 壬午 花朱

根元肥前守殿に

北野道中守

先達高太公深か望まじし程なり
御合符は 儀國守願吉嗣所存
河原部 高平守方 汝方馬に
手紙奉りし程又 北野道中守



日本書紀
卷之四

天智元年
申六月

日本書紀

內閣

聖書面... 通中... 抄本... 申六月

日本書紀

